

学校自己評価書 II 学校経営に関するもの 平成28年度 奈良市立済美小学校

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目 (具体的な評価項目、指標)	取組と成果	小項目 の評価	中項目 の評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策	
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	①校長のリーダーシップ							
		②学校経営目標・方針							
		③教職員の適正配置と運営への参画意識							
		④校務分掌等の連携	職員が連携し、取り組んでいる。	ホワイトボードやコンピュータソフト「OneNote」を活用して、毎朝の職員打合せや毎月の職員会議で連絡・調整・情報交換等を行い連携を図ってきた。	A	A	職員アンケート38「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。」で、Aが65%、Bは31%であった。	引き続き、日々の連絡を密にし、連絡調整を大切にしていく。	
		⑤会議の運営と位置づけ	職員会議や各種会議が、職員間の共通理解・情報交換・課題検討の場として機能している。	重要な案件については、企画委員会や各部で話し合い、検討事項や確認事項等を整理し、その上で職員会議で意思統一を図ってきた。	A		職員アンケート39「職員会議や各種会議が共通理解や情報交換、課題検討の場として機能している。」では、Aが73%、Bは27%であった。	各種部会や企画委員会等、少人数で十分に検討し、職員会議では提案の経緯を説明して意思統一を図っていく。	
		⑥会議の結果	会議で検討した事柄に関しては、職員が一致した認識を持ち、取り組んでいる。	「OneNote」で会議の資料や連絡内容をすぐに確認できるようにし、意思統一を図ってきた。	A		職員アンケート40「職員会議で共通理解した事柄・内容については、一致した認識で指導に当たっている。」では、Aが64%、Bは36%であった。	会議資料をすぐに確認できるようにし、一人一人が会議結果を意識していく。	
		⑦職場の人間関係							
	(2) 研究・研修	①研修の組織・計画・実施	三推進委員会や各教科・領域の部会が機能的に活動している。	各委員会、各部会ともに計画を立て、それに基づいて実践・評価を行い、研究推進に向けて機能した。	A		A	職員アンケート「校内研究組織が確立し、計画的に研修を実施し、教育実践に生かしている。」では肯定的な意見が100%で「強く思う」は、86%であった。	次年度も、現在の体制を維持して、継続的に取り組む。
		②校内研修	全ての教科において、日々の授業に活かせる研修を積極的に行っている。	ESDと地域教材について・救急法・人権・特別支援・研究主題・ICTに関わってなど、講師を招聘して研修を行った。また、研究授業においても講師を招聘し、研究協議を行った。	A			研修でグループ討議を取り入れたことで、話し合いが深まり、有意義な授業研究ができた。 児童アンケート「ICTを使った学習は楽しい」では、95%「ICTを使った学習では自分の考えを深めることができた」では85%と「はい」の回答が高くICTを取り入れた効果的な学習ができたといえる。	次年度も継続して取り組む。
		③授業研究	各学年1本の研究授業と研究協議を実施し、オープン授業を積極的に行っている。	公開授業については講師を招聘し、1年＝国語科・2年＝国語科・3年＝国語科・4年＝算数科、6年生＝社会科にて行った。5年生と、1年生は奈良市ICT公開授業を合同授業で行った。特別支援学級においては、公開授業を行った。	A			職員アンケート「公開授業を通して、授業方法について検討する機会がある。」では肯定的な意見が100%で、「強く思う」は、96%と高い。	研究協議においてさらに活発な意見交換が行われるように工夫をし、日々の学習に活かす。
		④校外の研修への参加							
		⑤研修成果の普及	三推進委員会での協議内容などの共通理解や外部での研修成果の報告を行っている。	各委員会、各部会において内容の周知はできた。外部研修の報告は積極的に回覧を行った。研究テーマに関する内容に関しては適宜研修を行った。(ICT)	B	職員アンケート「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会を設けている。」では肯定的な意見が96%であった。「強く思う」については、50%であり、昨年度より12ポイント上昇した。		報告の機会として、資料の回覧時に声をかけたり、多くの教職員に成果を共有できるようにする。必要な内容に関しては、引き続き研修の時間を設ける。個人で研修に行かれた場合、必要と思われるものに関しては、適宜回覧する。	

II 学校経営に関するもの2

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目 (具体的評価項目、指標)	取組と成果	小項目 の評価	中項目 の評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策	
II 学校経営に関するもの	(3) 安全管理	①学校安全計画の立案	学校安全計画を立案・作成し、交通安全・防災の両面から安全が確保できるようにしている。	「子ども安全の日」や「安全点検の日」などを設け、児童も職員も意識して計画的に取り組むことができた。	A	A	安全計画を立て、避難訓練や安全点検や見回りなど実施できた。	来年度も計画を見直し整理し、この体制を維持していく。	
		②学校防災計画の立案	災害発生時に対応する学校防災計画を立案・作成し、それをもとに避難訓練、引き渡し訓練を実施している。	火災・地震を想定した避難訓練では、事象の発生場所や避難終了までの流れを事前に共通認識したうえで実施している。	A		細部にわたり立案し、大地震などの災害に備え引き渡し訓練を実施できた。	来年度も避難訓練の充実を図っていく。	
		③危機管理体制の整備	・緊急時における学校の体制を整えている。 ・校舎内外と遊具の安全点検を行っている。	毎月17日の「子ども安全の日」に各学年で安全指導し、学年一斉下校することができ、児童にも意識が定着してきた。児童アンケートで「あぶない目にあわないように、先生たちは守ってくれている。」が97%で安心感を与えている。	A		危機管理マニュアルについて体制ができてきている。職員アンケートでは、「危機に対してはマニュアルができていて、適切な対処ができるようにしている。」が100%で日常的な点検などについて肯定的な意見であった。	教職員での共通理解を再度確認する。具体的な危機管理マニュアルにする。	
		④安全指導の工夫改善	安全指導の充実を図り、児童の安全に対する意識を高めている。	不審者対応と火災・地震を想定した避難訓練を実施し、静かに速やかに避難することが身につけてきた。	A		交通安全教室・避難訓練を実施し、自ら身を守る意識や行動力を身につける指導をすることができた。児童アンケートでは、肯定的な意見が多かった。保護者アンケートで「学校は安全への配慮がなされ、安全確保に努めている」について94%で肯定的であった。	事故を未然に防ぐことができるように、さらに通学路の安全確認と登下校指導をし、児童の安全意識を高める。	
		⑤家庭との連携	家庭・地域との連携をとりながら、登下校時の安全を図っている。	保護者や地域の方々に下校時刻を知らせることにより、家庭や地域の協力を得て、安全に登下校することができた。	A		保護者に下校時刻を知らせ、家庭や地域の協力のもと、安全指導や登下校時の見回り活動を行うことができた。	今後も地域・家庭と連携し、児童の登下校の安全を図ってきたい。	
		⑥関係諸機関との連携							
	(4) 保健管理	①学校保健計画の立案	学校保健安全年間計画を立案・作成する。	5月までに学校保健安全計画を立案作成し、全教職員の共通理解を得ながら取り組んだ。	B	A	5月までに学校保健安全計画を立案作成した。	より児童の実態・目標に沿った実践となるよう、学期毎に計画内容の確認・総括を行いたい。	
		②心のケアや健康相談体制の整備	児童の欠席や保健室来室状況をもとに、身体面・精神面でのケアができるように担任と養護教諭、関係教職員との連携を密にする。	身体面・精神面で不調を訴える児童については、担任をはじめ関係教職員と情報交換し、その児童の発達段階に応じた対応をその都度連携して行えた。	A		出欠や保健室来室状況で気になる児童については、「保健室来室カード」の利用等によって、児童自身が身体・生活状況を振り返ることができるよう、担任と共に対応した。	心の課題を抱える児童については、これからもその児童の課題や目標を担任をはじめとする関係教職員で確認共有しながら対応していきたい。	
		③健康観察、健康管理能力の育成	定期的に保健指導を実施し、児童の健康管理能力の育成に努める。	学年を重ねる毎に、少しずつではあるが児童が自身の状況から、見通しを持って対応しようとする姿が多く見られるようになった。	A		傷病等で来室する児童については、「保健室来室カード」の利用等によって、児童自身が身体・生活状況をふりかえることができるよう担任と共に対応した。	児童が自立的に健康に生活できるように、継続的に保健指導に取り組みたい。	
		④関係機関との連携							
		⑤「食」に関する指導の全体計画の立案	「食」に関する指導の全体計画を立案・作成している。	全体計画に基づき、特別活動や各教科と関連させながら取り組んだ。各学年では栽培活動を行った。収穫した食材を食する学年もあり、食材に関心を持てた。また各学年の実態に応じた食育の授業や各機関の出席授業を行い、食品や栄養についての学習が行われた。	A		5月までに「食」に関する指導の全体計画を立案した。「食」に関する指導の全体計画に沿って、食育の授業では栄養教諭による実践がおこなわれ、食に関する関心や理解を深められた。	来年度も継続して食育指導を行っていく。	
		⑥学校給食の衛生管理	日常衛生点検を実施し、衛生に留意した指導を実施する。	各学級では児童の健康状態を把握し、日常点検表を記入している。給食当番、給食委員会の活動においても、衛生に注意しながら給食配膳や片づけが行われた。	A		毎月、日常衛生点検表を担当が記入し、児童が衛生面に気をつけて給食準備や片付けができるようにした。	来年度も継続して食育指導を行っていく。	
⑦保護者への啓発活動		児童の健康教育についての理解を深めるための啓発を行う。	ほけんだより・学校保健委員会だよりの等の発行、学校保健委員の保護者が学級懇談会で報告する、児童の健康課題について保護者同士で交流する等、様々な啓発方法を取り入れたことで、児童の健康についての意識の共有ができ、向上につながった。	A	保護者に参加してもらいやすい日程を設定し、給食試食会をはじめ、2学期の学校保健委員会は学校歯科医による講演、3学期は本校担当栄養教諭による実習・基本的な生活習慣形成について保護者との交流を行った。		学校保健委員会等で、児童の健康課題について保護者と共に考えることができるような内容や運営方法について検討したい。		

II 学校経営に関するもの3

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目 (具体的評価項目、指標)	取組と成果	小項目 の評価	中項目 の評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策	
II 学校経営に関するもの	(5) 地域との連携	①学校情報の発信	ホームページや便りを通じて、教育活動を保護者に伝えている。	毎月学校便りや学年便りを発行すると共に、毎日ホームページを更新してきた。	A	B	保護者アンケート17「学校は、学校の便りやホームページ等を通じて、教育活動を分かりやすく伝えている。」において、Aが97%であった。	これからも、ホームページや便りを通して、積極的に情報発信をしていく。	
		②学校(授業)公開							
		③家庭・地域との連携							
		④PTAの活性化							
		⑤校種間連携	小中一貫教育を念頭に置いて取り組んでいる。	春日中学校区の教職員で教科部会と代表者部会を設け情報交換や合同研修会を行ったり、タグラグビーでの児童の交流、作品交換、作品展などを行ったりした。	B		職員アンケート49「小中学校9年間のつながりを意識して、教育活動に取り組んでいる。」で、AB共に50%であった。	各校と協力してこれまでの取組を継続すると共に、実務者会議で話し合ったことを職員朝礼や会議で話題にするなど、日常的に小中一貫教育を意識するようにしていく。	
		⑥学校評議員							
	(6) 施設・設備	①教育環境の整備					A		
		②施設設備の有効利用							
		③施設・設備の管理	施設設備に注意を払い、不都合があるときは速やかに適切に対応する。	担当する教室は日常的に点検し、異常があれば管理職に報告し対処すると共に、担当者を決め、校舎内外を定期的に点検した。	A	職員アンケート42「施設・設備について、日常的に点検や管理を行い、不具合があるときは適切に処理している。」で、Aが77%、Bが23%であった。		破損箇所や危険箇所については気付き次第対処すると共に、定期点検時期には声を掛け合って実施していく。	
	(7) 情報管理	①公文書の収受・保管					A		
		②公文書の作成							
		③個人情報の管理・保護	個人情報の取り扱いに配慮し、共通理解して個人情報保護に取り組んでいる。	年度当初に、ホームページや学校の便り、新聞、テレビ等への個人情報掲載について保護者の意向を尋ねると共に、ホームページへの写真の掲載に際しては個人が特定されないように配慮したり、作品掲示等に際しては、個々に同意書を得たりした。	A	職員アンケート48「児童の個人情報について、取り扱い要項に従って適切に配慮している。」で、Aが98%であった。		年度初めに個人情報の掲載に際し保護者の意向を確認すると共に、作品等の掲示に際しては個々に同意を得ていく。また、ホームページへの写真掲載に際しては、個人が特定されないように配慮していく。	
		④情報の収集							